

桂枝加竜骨牡蠣湯の 運用において 糸の切れた風船の話

臨床 § 症 例

峯 尚志

桂枝加竜骨牡蠣湯とは

『金匱要略』の条文

それ失精家は、小腹弦急し、陰頭寒え、目眩し、髪落ち、脈は極虚し乳遅、清穀乏血失精をなす。脈は諸を乳動微緊に得、男子は失精し、女子は夢交す。桂枝加竜骨牡蠣湯これを主る。

本処方が示す病態の核心

「失精家」とは精気を消耗した状態を指す。小腹の弦急、陰頭の冷え、目眩、脱毛といった虚証の症候とともに、脈は極虚・乳遅を呈する。男性では遺精、女性では夢中での性交感（夢交）として現れる。腎気の虚衰により心陽が制御を失い、浮揚した状態が本方の適応となる。

桂枝加竜骨牡蠣湯の処方構成と薬理

本方は桂枝湯（桂枝・芍薬・生姜・甘草・大棗）に竜骨・牡蠣を加えた構成である。陰陽・自律神経系のバランスを整える漢方処方の代表方剤。

竜骨・牡蠣

浮揚した陽（気）を潜鎮・収斂する。精神安定、鎮静、固澁の作用を持ち、不安・動悸・不眠・遺精に対応する。

桂枝・芍薬

桂枝は陽（交感神経系）を温通し、芍薬は陰（血・津液）を補い副交感神経系を整える。陰陽の協調が本方の要である。

生姜・甘草・大棗

中焦（消化機能）を補い、気血の生成を助ける。処方全体の調和を保ち、補虚の基盤を整える。



「糸の切れた風船」という比喻

桂枝加竜骨牡蠣湯の病態を最もよく表すのが「糸の切れた風船」の比喻である。先天の元気のもとである腎が弱くなり、心陽を制御できなくなって陽がひとり上に昇った状態だ。地に足がつかず、ふわふわと浮揚する感覚——不眠・動悸・不安・イライラ・頻尿・夜尿などの症状がそれに対応する。本処方は鉉物である竜骨、牡蠣の重みの安神作用がふわふわを抑えてくれるのである。これは指一本で風船の浮力を抑えているような絶妙なバランス調整と感じている。本治としては六味丸などの補腎処方を加味し、陰を補って浮揚した陽を引き降ろすことが根本の方針となる。



主な適応症候一覧



不眠・悪夢

入眠困難、多夢、悪夢など睡眠の質の低下。陽が上に浮揚し、精神が安定しない状態に対応する。



陰部の冷え・虚証

陰頭寒、臍下不仁など下半身の冷えや感覚鈍麻。腎虚を背景とした虚証の典型的な表れである。



動悸・不安

胸の動悸、強い不安感、緊張が続く状態。「息が吸えない」という訴えとともに現れることもある。



耳鳴り・めまい

目眩・耳鳴りも本方の適応症候に含まれる。腎虚による精気の上衝が関与すると考えられる。



症例 1

35歳・女性：動悸と息が吸えない

半年前、突然の動悸と「息が吸えない」感覚で救急外来を受診。内科的異常は認められず、安定剤を処方されて帰宅した。しかしその後も食欲不振・不眠・多夢が続き、不安と緊張が強いため当院を受診した。



症例 1 — 現症

身体所見と漢方的評価

身体所見

- 身長159cm、体重43kg（痩せ型）
- 血圧110/80mmHg、脈拍75整
- 肩から首にかけて激しい筋緊張、ロボットのような歩行
- 頬がうっすらと上気

漢方的所見

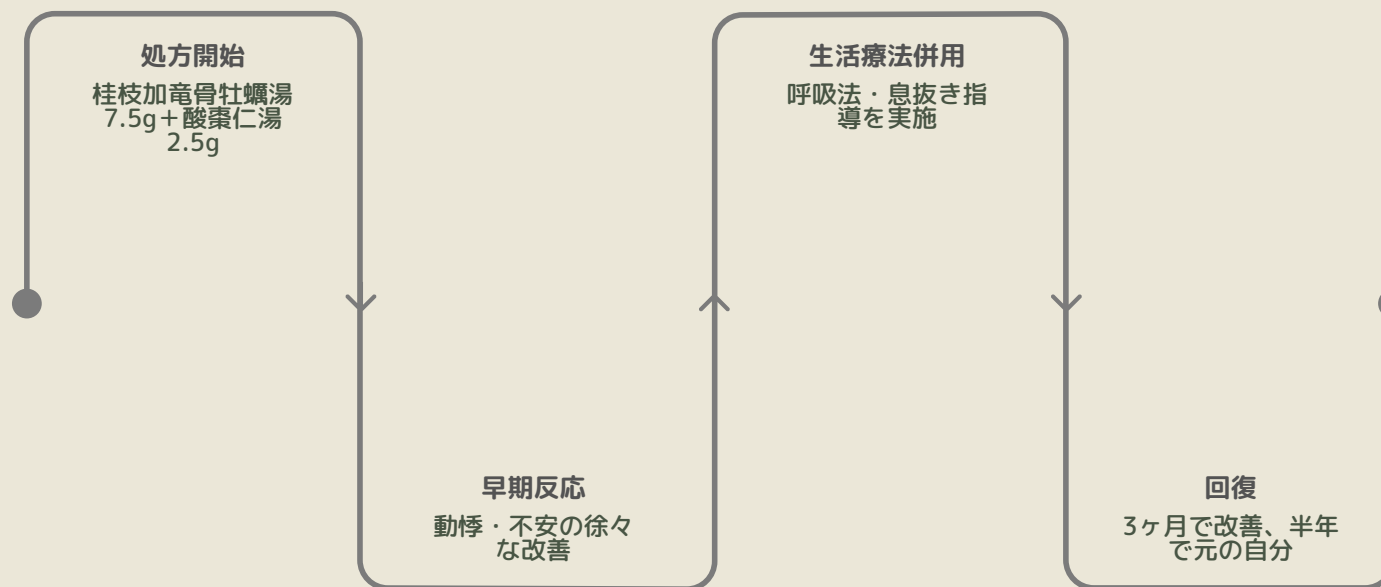
- 脈：弦細数
- 舌：やや紅色・薄白苔
- 腹力：弱、腹直筋緊張あり
- 痩せて虚証が顕著

① 頬の上気と腹直筋緊張・虚証の組み合わせが、本方適応の典型的な所見である。

症例1 — 経過

処方と治療経過

「自分の中に別の人格が入り込んでどんどん自分がなくなってゆく感じがして、このまま行くなら命を絶つしかない」と訴えていた重篤な状態であった。



桂枝加竜骨牡蠣湯エキス7.5gに加え、眠前に酸棗仁湯2.5gを処方。服薬後、動悸・不安が徐々に改善し、悪夢が減り、睡眠が回復した。呼吸法・息抜きの指導を組み合わせ、3ヶ月後には症状が改善、半年後には「ようやく元の自分に戻れた」と報告した。



症例 2

56歳・男性：陰部の冷えと耳鳴り

現病歴

3か月前より陰部の先が冷えるような感じが続く。左耳にシャーシャーという耳鳴りもある。表情は不安げで頬が上気していた。

現症・漢方所見

- 身長167cm、体重57kg（痩せ型）
- 脈：沈細
- 腹直筋緊張（＋）、臍下不仁（＋）
- 舌：淡紅色・薄白苔少量
- 胸脇苦満なし



症例2 — 経過

劇的な改善と人生の転機

桂枝加竜骨牡蠣湯エキス7.5g（分3）を処方したところ、服薬わずか3日目で陰部の冷えが消失。頬の上気もとれ、耳鳴りと不安感も著明に軽減した。

標治：桂枝加竜骨牡蠣湯

陰部の冷え・頬の上気・耳鳴り・不安感が3日で改善。浮揚した虚陽を潜鎮する本方の即効性が示された症例。

本治：六味丸加杜仲・釣藤鈎＋スッポン末

性的不安を訴えたため補腎処方を加味。円満な夫婦生活が回復し自信も改善。10歳年下の女性との交際・結婚という人生の転機にもつながった。

耳鳴りの完治

3か月後には耳鳴りも完全に消失。標治と本治を組み合わせた補腎・潜陽のアプローチの有効性を示した。

症例 3

85歳・女性：夜間の徘徊

現病歴

慢性気管支炎・慢性膀胱炎で入院中だが病状は安定。1か月前より夜間の徘徊が始まり、男性患者の部屋に行って寝てしまうことが続いていた。

現症・漢方所見

- 身長150cm、体重38kg（痩せ型）
- 血圧115/78mmHg
- 脈：沈細弱やや数
- 舌：紅色・白苔少量
- 腹力1/5、臍下不仁あり
- 便通：1日2回

症例 3 — 経過

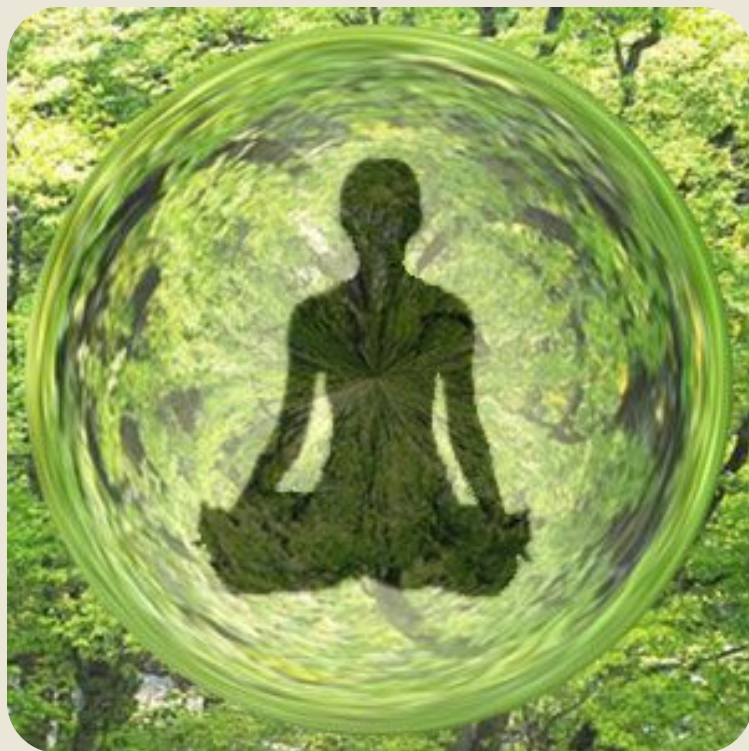
「夜になると糸の切れた風船のように」

昼間は穏やかで会話も普通にできるが、直前のことを忘れることがある。頬にほんのりと赤みがあった。夜になると糸の切れた風船のようにふわふわと徘徊がはじまり、朝には前夜の記憶がない。

- ✓ 桂枝加竜骨牡蠣湯7.5gを処方したところ、3日後より徘徊が消失。良眠が回復し、夜間の見当識も著明に改善した。

本症例は「糸の切れた風船」という比喻が最も鮮明に体现された症例である。腎虚により心陽の制御が失われた夜間の浮揚状態に、潜鎮・固渋の作用を持つ竜骨・牡蠣が奏効した典型例といえる。

桂枝加竜骨牡蠣湯の方意：陰陽・自律神経系の視点



陰陽バランスと自律神経

桂枝は陽（交感神経系）を温通し、芍薬は陰（血・津液）を補い副交感神経系を調整する。竜骨・牡蠣は浮揚した陽気を潜鎮・収斂し、上衝した心陽を下ろす。

腎（先天の元気）が弱まり陰が虚すると、陽を下に繋ぎとめる力が失われ、陽がひとり上に浮揚する。本方はこの「虚陽上浮」の病態を標治する要方である。

構成生薬の解説

竜骨

大型哺乳動物の化石骨。潜陽・鎮静・固渋の作用。浮揚した陽を下に引き降ろす。

牡蛎

カキの貝殻。滋陰・潜陽・軟堅。竜骨と相須し精神安定・収斂に働く。

桂枝

シナモンの枝。温通心陽、解表散寒。交感神経系に対応し陽気を巡らせる。

芍薬

ボタン科の根。補血・養陰・緩急止痛。副交感神経系を整え腹直筋緊張を緩める。

生姜・甘草・大棗

中焦を温め補い、気血の生成を促す。桂枝湯の基本構成として全体を調和させる。

まとめ： 桂枝加竜骨牡蠣湯の運用指針

01

「糸の切れた風船」の病態を見極める

不眠・動悸・不安・頬の上気・腹直筋緊張・臍下不仁など虚陽浮揚のサインを確認する。

02

標治：桂枝加竜骨牡蠣湯で潜陽・固渋

浮揚した陽気を潜鎮・収斂し、症状の速やかな改善を図る。3日以内に反応が出ることも多い。

03

本治：補腎処方の加味を検討

根本は腎虚にある。六味丸などの補腎処方を加え、陰を補い陽を繋ぎとめる長期的管理を行う。

04

生活指導との組み合わせ

呼吸法・息抜きの工夫・睡眠衛生など、地に足をつける生活習慣の指導を並行して行う。